

赤城ウェルグラウンドの拠点施設： おの 大沼キャンプフィールド

■ 県立赤城公園の活性化に向けた取組～赤城ウェルグラウンドと自然環境・景観の保全～

県立赤城公園は、日本百名山として名高い黒檜山や地蔵岳をはじめとする赤城の山々、大沼・小沼・覚満淵の湖沼・湿地、希少な野生動植物など、豊かな自然が魅力の公園です。近年では、年間100万人を超えていた利用者数が50万人程度に減少し、新たな利用ニーズに 대응していくことや、地元事業者の高齢化や後継者不足を背景として新たな担い手を確保すること、老朽化に伴う施設の維持管理費用の増大などの課題に直面していました。

こうした課題に対応するため、自然環境課では地元事業者や前橋市、民間企業等の関係者とともに検討を重ね、令和4年10月に「県立赤城公園の活性化に向けた基本構想」を策定しました。生きがいやウェルビーイングなど、これからの時代に求められる価値観を念頭に、自然環境の保全・保護に配慮して公園エリアを利活用することとし、「自然」を核とした公園の魅力を引き出して、にぎわい・滞在・交流・体験等の機会を創出する「赤城ウェルグラウンド」を目指して取り組んでいます。また、持続可能な公園管理・運営体制の構築を見据えた新たな取組として、大沼キャンプフィールドと赤城ビジターセンターを拠点施設として整備し、官民共創によって管理・運営を行うこととしています。

こうした整備事業の実施に伴い、民間による乱開発の増加が懸念されることから、優れた自然の風景地の保護と調和を図るため、景観保全に向けた取組も実施しています。まず、将来に向けて自然豊かな赤城山の価値を守り繋ぎ、良好な景観形成を図ることを目指して前橋市と赤城山デザイン協議会を組織し、地元住民や環境団体と協力して「赤城山景観ガイドライン」を策定しました（令和7年5月公表）。また、自然景観の保護と公園利用の調和を図っていくため、（仮称）群馬県立自然公園条例の策定と本県初の県立自然公園となる「県立赤城自然公園」の指定に向け、検討を進めています。



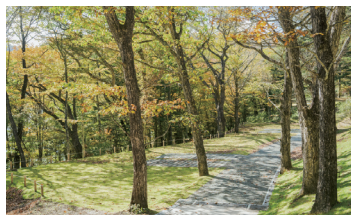
モバイルハウス「住箱」 5サイト

建築家・隈研吾氏と開発したモバイルハウス「住箱-JYUBAKO」の宿泊プラン。トイレとシャワーも完備しています。



ドッグランサイト 8サイト

柵に囲われた大型の区画サイト。サイト内ではリードなしでワンちゃんとお過ごしいただけます。手洗場・電源付。



区画オートサイト 45サイト

駐車スペースが横付けされているオートサイトです。15m×15mを基準に区画されており、広々お使いいただけます。

キャンプフィールド利用料 Campfield fee

サイト	シーズン料金 ※税込価格		
	レギュラー	ハイ	トップ
フリーサイト(12m×12mごと) IN:13:00~ OUT:~11:00	5,500円	6,600円	7,700円
フリーサイト(6m×6mごと) IN:13:00~ OUT:~11:00	2,200円	3,300円	4,400円
区画オートサイト IN:13:00~ OUT:~11:00	7,700円	8,800円	9,900円
電源付き区画オートサイト IN:13:00~ OUT:~11:00	8,800円	10,450円	11,880円
ドッグランサイト IN:13:00~ OUT:~11:00	11,000円	13,200円	15,400円
モバイルハウス「住箱-JYUBAKO-J」 IN:13:00~ OUT:~10:00	24,200円	27,500円	30,800円
デイキャンプ利用 IN:11:00~ OUT:~17:00	2,750円~	3,300円~	3,850円~
アーリー/レイト料金 IN:11:00~ OUT:~17:00	オールシーズン 1,100円		



■ 大沼キャンプフィールド（愛称「スノーピーク 赤城 キャンプフィールド」）

大沼キャンプフィールドは、林間学校や民間保養所として利用されていた県有地について、廃屋撤去や無電柱化、既存樹木の移設など、湖畔景観と自然環境に配慮して整備を進めました。指定管理者が施設の管理・運営を担うこととし、事業提案に優れていた「株式会社スノーピーク」を指定管理者に選定しました（指定管理期間：10年間）。また、同社はネーミングライツパートナーにも決定し、「スノーピーク 赤城 キャンプフィールド」の愛称で今年4月25日に開業しました。

利用者の皆様には、以下の3つを大きな魅力としてお楽しみいただいています。まず、本キャンプ場は標高1,350メートル付近にあり、前橋市の市街地に比べて気温が約10℃低く、夏場でも涼しく快適に過ごすことができます。東京圏から約2時間でアクセスすることができ、春の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色など、四季を通じて、本格的な山の自然を身近に体感できることも大きな魅力です。2点目は、キャンプサイトが充実している点です。キャンプサイトは全部で109か所あり、ほとんどが車で乗り入れ可能な「オートサイト」です。愛犬と一緒に過ごせる「ドッグランサイト」や、トレーラーハウスで過ごすモバイルハウス「住箱（じゅうばこ）」もあります。3点目は、手ぶらでキャンプが楽しめる点です。道具一式をレンタルでき、専属スタッフのサポートにより、初心者の方にも安心してご利用いただけます。

■ 赤城ビジターセンター（愛称「スノーピーク ランドステーション 赤城」）

もう一つの拠点施設であるスノーピーク ランドステーション 赤城は、今年9月にオープンする予定であり、赤城山頂エリア周遊等の観光案内のほか、カフェの営業、産直品やアウトドア用品販売などを行います。また、会議やコワーキングのスペース、コインロッカー、コインシャワー等の設備を備え、ワーケーションでの活用や、登山やランニング、散策などのアクティビティを快適にお楽しみいただけます。



手ぶらキャンププラン 税込27,500円~

キャンプ道具一式をすべてレンタルでご利用。1泊2日のキャンプを気軽に体験いただけます。1組5名まで利用可。



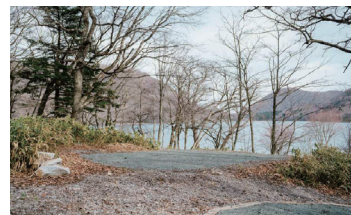
電源付き区画オートサイト 28サイト

電源が用意されている区画オートサイトです。初心者やお子様連れの方のほか、冬期利用にもおすすめです。



フリーサイト (B・C・D) 15サイト

好きな場所をお選びいただき、1サイトにつき6名様、12m×12m程度範囲を基本としてご利用いただけます。



フリーサイト (O) 8サイト

好みの場所で6m×6m程度範囲・小型テント1張りをご利用いただけるサイトです。登山目的の方におすすめです。

